

脳脊髄液減少症の診断・治療が可能な医療機関

特定疾患の登録医療機関を対象に平成21年8月にアンケート調査を行い、ホームページ上での情報公開に同意の得られた医療機関について情報提供しています。(平成23年2月一部追加)

詳しくは、直接医療機関にお問い合わせください。

医療機関名	所在地	電話番号	診療科名	診断等の可否	
				診断	プラッドパッチ療法
のぞきクリニック	加賀市作見町へ17-1	0761-72-7002	脳神経外科	○	○
小松市民病院	小松市向本折町木60	0761-22-7111	脳神経外科	○	○
やわたメディカルセンター	小松市八幡イ12-7	0761-47-1212	脳神経外科	○	○
公立松任石川中央病院	白山市倉光3-8	076-275-2222	脳神経外科	○	○
ののいち白山醫院	石川郡野々市町太平寺4-45	076-248-2151	脳神経外科	○	
金沢大学附属病院	金沢市宝町13-1	076-265-2384	脳神経外科	○	
金沢医療センター	金沢市下石引町1-1	076-262-4161	神経内科	○	○
医王病院	金沢市岩出町二73-1	076-258-1180	神経内科	○	○
金沢市立病院	金沢市平和町3-7-3	076-245-2608	脳神経外科	○	
金沢社会保険病院	金沢市沖町ハ15	076-252-2200	脳神経外科	○	○
浅ノ川総合病院	金沢市小坂中83	076-252-2101	脳神経外科・ 神経内科	○	
石川県立中央病院	金沢市鞍月東2-1	076-237-8211	神経内科	○	○
いしぐろクリニック	金沢市窪4-515	076-243-2500	脳神経外科	○	
公立羽咋病院	羽咋市市場町松崎24	0767-22-1220	脳神経外科	○	
珠洲市総合病院	珠洲市野々江町ユ1-1	0768-82-1181	脳外科	○	○

<脳脊髄液減少症とは>

出展:「脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する調査研究(研究代表者 嘉山孝正 山形大学教授)」

低髄液圧症候群と脳脊髄液減少症

【病気の概念】

低髄液圧症候群は、脳脊髄液の漏出によって起立時の牽引性頭痛を主症状とする症候群である。低髄液圧による頭痛は、1988年の国際頭痛分類(初版)にも、すでに記載されていることからわかるように、けっして新しい疾患概念ではなく、半世紀以上も前に、当時、中枢神経系の診断法として唯一の方法であった腰椎穿刺後に発生しやすいことが知られていた。

その後、腰椎穿刺以外の脊椎脊髄外傷後、更には原因が特定できず”特発性”とされる症例の存在も報告されるようになった。また、最近では髄液圧が正常ながら、典型的な低髄液圧症候群の症状を持つ症例がある事が報告され、このような症例も含めて「低髄液圧症候群」にかわって「脳脊髄液減少症候群」という用語も使われている。

【病態生理】

頭蓋内腔の構成要素は、80%が脳実質、10%が血管、10%が髄液腔で、成人の髄液量は140ml程度とされている。これらは硬膜、くも膜という膜につつまれ存在している。髄液は、脳室内の脈絡叢で一日に約500ml産生され、脳脊髄の表面を還流後、頭蓋円蓋部のくも膜顆粒より吸収され、バランスを保っている。髄液圧は、側臥位では頭蓋内、腰椎レベルともに10~15cmH₂O前後であるが、立位になると、腰椎レベルでは40cm H₂O程度まで上昇し、逆に頭蓋内は陰圧になることもある。

髄液腔を包む硬膜、くも膜に何らかの理由で穴があき、髄液が漏れると、内部の水と供に脳が動き、痛覚受容体のある脳神経、脳の血管や頭蓋底の硬膜が刺激され、痛みを感じる。すなわち低髄液圧症候群の頭痛は「牽引性頭痛」に分類されている。低髄液圧症候群の最も中核的症狀である「起立性頭痛」は、立位になることにより、髄液が多く存在する頭蓋が、髄液の漏出部位より相対的位置が高くなり、髄液の漏出量が増えるためと考えられている。頭痛の発生機序としては、この他、静脈の拡張や髄液減少によるアデノシン受容体の活性化が関与するとの考えもある。

【原因】

最も有名で、かつ歴史も古いのが腰椎穿刺後の髄液漏出である。髄液検査時や脊髄麻酔時には、現在でも穿刺針の工夫などの予防策がとられてはいるが、現在でもしばしば経験する。その他の理由としては、硬膜損傷をともなう脊髄・脊椎外傷や nerve sleeveのcyst、くも膜嚢胞、髄膜瘤などの奇形に伴うものも報告されている。原因不明すなわち特発性の低髄液圧症候群は、1938年にSchaltenbrandによりはじめて報告されている。

先にも述べたように、本症候群が近年関心を浴びているのは、本症候群といわゆる鞭打ち症を含む外傷性頸部症候群との関連が取沙汰されていることにある。本症候群と外傷性頸部症候群に関しては、2000年頃より、平塚共済病院(当時)の篠永正道らにより「頸椎捻挫に続発した低髄液圧症候群」と題する学会報告が行われたことに端を発している。頸椎捻挫と本症候群の関連については、海外でも詳細な検討はなされておらず、その関連は今後の検討課題である。